令和８年度　第３回　府中市市民協働推進会議市民協働・共創促進事業選定・評価部会
開催結果

１日　時　　令和８年５月２６日（火）　午後１時０５分から午後４時５０分まで

内容	時間
市民協働・共創促進事業 報告会	午後１時０５分から午後３時５５分まで
市民協働・共創促進事業 評価会 ※部会	午後４時０５分から午後４時５０分まで

２会　場
府中市市民活動センタープラッツ　地域支援事務室　第５会議室

３出席者　（委員）五十嵐耕大部会長、芝喜久子部会員、花岡麻穂子部会員
（オブザーバー）中村協働・共創アドバイザー、大井市民協働推進部長、福嶋協働共創推進課長
（事務局）加瀬協働共創推進課主査、大藤協働共創推進課主査、徳吉事務職員

４欠席者　なし

５傍聴者　なし（事業審査のため非公開）

６議　事　令和８年度市民協働・共創促進事業の選定審査について

７会議内容

⑴　令和８年度市民協働・共創促進事業提案事業について、提案団体、市担当課による公開プレゼンテーションと質疑応答を行った。その後、提案のあった事業について「市民協働・共創促進事業採択者審査基準」に基づき、各事業について意見交換と審査を行った。

⑵　「市民主体の環境保全活動センター検討会議」については、各部会員の審査の点数が６割を超え、かつ可否審査において「可」が過半数を超えたため、採択となった。
出席者の主な発言は、以下のとおりであった。
・ワークショップの一般参加者に対する謝礼については、審議会等の委員報酬とは性質が異なるため、委託費の対象外とすることが望ましい。
・本事業実施後、成果物として単なる意見一覧・報告書ではなく、当該意見等を踏まえて、市の方針案（現状の分析を行い、運営形態を検討する）事業案・施策案・運営体制案・実施スケジュール・概算費用等を具体的に取りまとめて報告することが望ましい。なお、報告内容は広く市民へ公開するべきである。
・参加者が日頃から環境保全活動に関わる市民・団体等に偏らないよう、学校、事業者、若年層、子育て世代等にも積極的に参加を呼びかけること。また、提案者から重点的に声をかけたいという旨の説明があったことを受け、若年層（40 歳未満）の参加割合を５割以上にすることを目標として設定し、対策を講じること。

⑶　「多摩産材の間伐材まな板作り（寄贈）」については、各部会員の審査の点数が６割を超え、かつ可否審査において「可」が過半数を超えたため、採択となった。
出席者の主な発言は、以下のとおりであった。

・継続的に事業を行うことを視野に入れ、参加者が社会貢献活動を自分ごととして意識できるようにするために、参加者から参加費を徴収すること。
・高齢者施設への寄贈について、自ら寄贈することで人の役に立つ実感が得られ、次の活動へのモチベーションに繋がるため、出来る限り多くの希望者に参加させること。

⑷　「ゲームで進める府中市の男女共同参画推進事業」については、各部会員の審査の点数が６割を超え、かつ可否審査において「可」が過半数を超えたため、採択となった。
出席者の主な発言は、以下のとおりであった。
・次年度以降もカードを使用したイベントを継続するため、市民の認定ファシリテーターを育成すること。
・まだ育児をしていない世代にも大切なテーマであるため、学生の参加を促すこと。
・イベント実施回数に関わらず、目標人数（200 人）が達成できるように努めること。

⑸　「健康寿命を延ばす府中の食育プロジェクト」については、各部会員の審査の点数が６割を超え、かつ可否審査において「可」が過半数を超えたため、採択となった。
出席者の主な発言は、以下のとおりであった。
・より多くの方に普及させるため、介護予防事業の取り組み等分野の異なる他事業と連携すること。
・地場産野菜の地産地消の観点から、市内農家や東京農工大学、都立農業高等学校と連携すること。
・提案事業者の広報ツールも積極的に活用し、周知を行うこと。